
スクリーンを映す瞳

りの。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スクリーンを映す瞳

【Nコード】

N3529BA

【作者名】

りの。

【あらすじ】

十六階に住む僕たち。

クレヨンで画用紙に適当な幼稚園児が描くようなでもけっして異なる絵をぐるぐるとかきながらだんだんと緩やかになっていくのを感じていた。

DVDレコーダーがおやすみのためいきをついた。

僕はぱつと持っていた赤いクレヨンを放り投げ、十六階の窓に向かった。窓からは、線路、ビル群、家とかごみごみしたのが見えた。僕の窓は、ベランダに続く窓だ。だけれど、そのベランダを切り落としてしまったから、窓を開けると、床から急になにもなくなる。落としたクレヨンを拾い上げ、僕は窓に向かってちいさな四角形を、大きなビル群を囲むようにこすりつけた。

次は緑で、家々を覆うような形で、じゃーっとかいて、一面の芝生であるかのようにぐりぐりと塗りつぶした。

意味のある行動。

それに人はいつもからめとられるような気がする。とくに、この時は。

僕の頭はぼーっとしていて、とくに何の活動をしているわけでも何かを分泌しているわけでもなかったけれど、それでもそれが心地よかったし、なにか正しいと感じていた。

僕はがらがらと窓を開け、風にあたってみた。赤いくれよんを、びゅつと、硬く力をこめて飛ばした。

ソファ。真っ白じゃない、ちょっと青みがあったソファ。それを窓ぎりぎりにおいて、そのソファに窓と垂直になるように、景色が見れるように寝っ転がった。

風ではたばたと白いレースが揺れた。

気がつけば音が消えていた。

強いて言えばしーんとした音がしていた。きーんかもしれない。その間ぐらいだと思う。

ゆっくりと起き上って、周りを見渡してみた。太陽が肌色の光を落していた。枯葉が、びたつと、窓の枠に張り付いた。その時だけ、びたつと、音がした。

僕はゆっくりと端にずれていき、その枯葉をはがして、下を覗き込んだ。

わつと声をあげ、ぐるんとまわって、僕は窓から飛び出した。

僕はソファから跳ね起きた。お母さんが買い物から帰ってきたところだった。新品のキツチンが見えた。

僕は何か大切な一つを失くしているんだけど、それに気づかないようにしている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3529ba/>

スクリーンを映す瞳

2012年1月9日02時48分発行